

# 自主の道に繁栄があり勝利がある

チュチェ思想国際研究所事務局長  
尾上 健一

尊敬するヨーロッパ・チュチェ思想研究学会会長マッテオ・カルボネリ先生  
尊敬する朝鮮社会科学者協会の諸先生  
尊敬する同志と友人のみなさん  
ヨーロッパ地域セミナーの開催と成功を心から祝賀いたします。

## 一．正義と平和は自主によって守りたたかいとられる

2024年8月9日11時2分、長崎市は原爆によって亡くなった方々への祈りに包まれました。

原爆が投下された日から79年。核のない平和な世界を実現しなければならないと訴えつづける長崎の声は世界に広がり、多くの人々の思いとなっています。

長崎市の平和祈念式典には、これまででもっとも多い世界101か国の首班や大使級が参加し、市民とともに犠牲となった被爆者を追悼しました。世界の過半数の国々の参加は、多極化された平和な新しい世界を求める流れが本流となっていることを反映するものでした。

米国による核兵器の使用は人類に犯したぬぐい切れない歴史的罪科です。

第二次世界大戦終結直前、米国は敗戦が決定的になっていた日本にたいし、あえて原子爆弾を使用しました。8月6日に広島にはウラン原爆を、8月9日に長崎にはプルトニウム原爆を投下し、それぞれ15万人、7万人余の命が瞬時に奪いられました。

長崎市長は平和宣言のなかで、「家族や友人を失った深い悲しみ、体に残された傷跡、長い年月を経ても細胞を蝕み続け、様々な病気を引き起こす放射線による影響、被爆者であるが故の差別や生活苦。原爆は被爆直後だけでなく、生涯にわたり被爆者を苦しめています」と、原爆被害は過去のものではないことを述べています。

長崎市は今年の平和式典にパレスチナを招請し、イスラエルの参加は拒む選択をし、その立場を貫きました。長崎市の決定を翻意させるためにG7の国々は政治的圧力をか

けたものの、戦争に断固反対する長崎の姿勢を崩すことはできませんでした。

いまこの瞬間もパレスチナ人民の大虐殺を続けるイスラエルは、原爆犠牲者を追悼する式典に参加する資格はなく、彼らに民衆にたいする畏敬を期待することはできません。

長崎市決定は被爆者、遺族の願いを擁護し、世界世論に合致するものであるとして多くの支持、共感を集めることになりました。

一方、日本を除く G6（米国、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、カナダ）は、長崎市がイスラエルの平和式典参加を拒否したことを非難し、自らも式典への参加を取りやめました。

米欧の式典不参加は、パレスチナ人民の大量虐殺を続けるイスラエルを支持することの表明であると同時に、彼ら自身が中東における戦争の継続を望んでいることを示すものです。

長崎市に参加した 101 か国と参加しなかった 6 か国、これが米国とイスラエルの大量虐殺に反対するか推進するかの明確な表現といえます。

いま、米欧諸国はゼレンスキー、ネタニヤフという傀儡を使って侵略戦争をつづけており、核兵器使用も視野に入れた動きを強めています。武器商人と化した G7 に被爆者を追悼する気持ちはありません。

G6 の長崎平和式典不参加は、岸田首相に三下り半を突きつけたも同然でした。イスラエルを招請するよう長崎市を説得できなかった傀儡は彼らにとって用のない存在だということです。

岸田首相は、歴代政権のなかでも突出した対米従属軍拡路線を歩んできました。

彼は政権を担当した期間に莫大な軍事予算を計上して軍拡をすすめ、自衛隊を米軍の海外演習に参加させるなど、米国にたいし多大な貢献をしてきました。

岸田首相は日本を戦争できる国にする政策を強行しましたが、米国の忠犬としての地位は変わらず、最後まで対等な関係はきずかれませんでした。まさに米国の忠犬として歴史に残る政策を貫いてきたといえます。

米国の意に反し気に入られなくなれば、操り人形のように他の人間に首をすげかえられてしまいます。

岸田首相は「長崎ショック」で中央アジア訪問を直前でキャンセルせざるを得なくなり、ついに退陣を表明することとなりました。

岸田首相の姿は、傀儡政権の末路を示すものであり、それは明日のゼレンスキー、ネタニヤフの姿と重なっています。

## **連帯を強める世界の反帝反米闘争**

世界における反帝自主、連帯の動きは、公平で平和な世界を実現するもつとも強力なたたかいです。

2024 年 6 月 19 日、金正恩総書記とプーチン大統領は、「包括的戦略的パートナーシ

ップ条約」に調印しました。条約は、両国の強固な安保同盟条約であり、両国の全面的な経済、技術、文化発展戦略を示すものであり、また、公正で平等な新しい国際秩序樹立のために協力する内容となっています。

「今日、朝ロ両国人民は自主と国際正義、平和を守るための峻厳な闘争の同じ塹壕にいる。両国人民の間の深まる親善と同志的關係は、国際平和と安全を守り、多極化した新しい世界を構築するうえで、頼もしい戦略的砦、推進力となっている」（労働新聞 6. 18）

朝ロの「包括的戦略的パートナーシップ条約」の締結を受け、国連安全保障理事会は緊急会合を開いて対応を話し合うなど、帝国主義諸国は動揺をかくせませんでした。

また、朝ロ条約締結に先立つ5月、ロシアと中国は「新時代のための包括的パートナーシップと戦略的協力」の深化に向けた共同声明を発表しています。

今日、反帝反米戦線は朝鮮、ロシア、中国、イランをはじめ世界各大陸に広がっており、経済、軍事、政治、技術的な結びつきを強め、共有する利益を特定し、軍事・外交活動を連携させつつあるといえます。

### **パレスチナ人民の正義のたたかい**

現在、世界でひきおこされている戦争はすべて帝国主義によるものです。

帝国主義による侵略戦争は歴史的に敗北を重ねてきました。朝鮮戦争、ベトナム戦争、アフガニスタン戦争など、圧倒的火力をもって支配をもくろんだ帝国主義は、命を賭して祖国を守ろうとする民衆の抵抗により敗北を喫してきました。

各国人民の反帝闘争によって帝国主義は敗北し弱体化するにつれ、彼らはより残虐で露骨な支配と略奪にむかっています。

2023年10月以降、イスラエルがおこなったパレスチナ人民への大量殺戮によってパレスチナの死者は4万人を超えています。

しかし、激しい攻撃にさらされながらもパレスチナではハマスを支持する人々がいつそう多くなり、ハマスはパレスチナ人民に依拠しながら頑強にたたかいつづけています。

2023年6月～2024年6月の世論調査（PSR）によると、ハマスはファタハの2倍の支持を得ています。また、パレスチナ人の73%が2023年10月7日のハマスによるイスラエル攻撃を正当と評価しています。

いっぽう、ハマス制圧を口実に始めたパレスチナ人民への攻撃によって、イスラエル自体の政治も混乱しています。

いま、イスラエル国内においてネタニヤフ政権への批判が高まっています。ネタニヤフは兵士不足を補うため、これまで兵役を免除してきた人口の約1割を占めるユダヤ教のなかの超正統派に初めて徴兵制を課しました。徴兵制の強硬な導入にたいしてネタニヤフの政権基盤を支えてきた超正統派からの反発が強まり、全国規模のデモがつづいています。

## 民衆の生命、正義を守るロシアの特別軍事作戦

米国は 2000 年代に入り、複数の旧ソ連国家においてネオナチを使って政権交代を画策し強行してきました。

2014 年、米国はウクライナのヤヌコビッチ政権を崩壊させました。政権の座についたポロシェンコ大統領はドンバスをはじめ東部住民を虐殺し、ウクライナの NATO 加盟を煽っていきました。2019 年に大統領に就任したゼレンスキーも米国の傀儡として同じ道を歩んでいます。ウクライナの NATO 加盟は NATO の東方拡大を意味するものであり、ロシアに大きな軍事的脅威を与えるものでした。

弱体化した米国は、いまでは独自で戦争をおこなう意思も力もありません。傀儡を仕立て、カネと武器を与えながら代理戦争で支配を強めようとしてきました。ウクライナではゼレンスキーに膨大な武器援助をおこないロシアと戦わせてきました。

米国連邦議会は 2024 年 4 月 23 日までにウクライナ、イスラエル、台湾などにたいする「国家安全保障に関する緊急追加予算法案」（総額 953 億ドル）を可決しました。緊急追加予算法案の内訳はウクライナ支援に 608 億 4000 万ドル、イスラエル支援に 260 億ドル、インド太平洋支援に 81 億 2000 万ドルとなっています。

バイデン大統領は、24 日に緊急予算法案に署名し、そのうちの 10 億ドルをウクライナ防空システム強化のために速やかに供与すると表明しました。

米国は膨大な額のウクライナへの軍事支援をつづけていますが、ウクライナには代理戦争を続ける兵力が底をつき始め、最近は何人かを戦闘員に仕立てて戦場へ送るまでになっています。

## 帝国主義は歴史的危機を迎え露骨な戦争策動へ

8 月、日本の敗戦記念日に際しておこなわれたチュチェ思想国際研究所の定例研究会でスピーチをおこなった在日パレスチナ人のタニムス・カコラさんは、“イスラエルがガザに投下した爆発物は 7 万トンを超えると推定されています。米欧諸国はイスラエルに数十億ドルと大量の武器を提供しつづけています”と訴えました。

世界人民が戦争を憎み平和を切望しているにも関わらず、21 世紀になってもなお、戦火が絶えない理由は一点に尽きます。戦争は帝国主義がひきおこし、帝国主義は戦争を続けることによってしか生存できない存在だからです。帝国主義が地球上に存在しているかぎり、世界の戦争は終わりがありません。

帝国主義は戦争によって莫大な利潤を得てきました。

第二次世界大戦を経て巨大化した米帝国主義は世界帝国主義の頭目の地位につき、国連、ドル、核兵器を世界支配の三大柱として利用しながら、ヨーロッパ、日本、韓国を従えて自主的な国を次々と攻撃してきました。

日本は戦後まもなく、米国がはじめた朝鮮侵略戦争に加担し、朝鮮人民を虐殺することによって、経済の底上げをおこなってきました。朝鮮戦争時、米軍への武器輸出によ

って経済は高成長を遂げ、1950～1953年まで、3年間の特需として10億ドル、1955年までの間接特需として36億ドルを得たと言われています。

こんにち、政治的経済的に弱体化した米帝国主義は侵略と略奪の本性をますます露わにし、戦争に狂奔しています。

2023年時点で、世界の軍事費のトップは米国で世界の軍事費の39%（約118兆円）となっています。武器輸出のトップも米国で、2019～2023年で17%増を示し、これは主要国の武器輸出の42%を占めています。

アジアでは日本が米国の武器輸入のトップにあり、2019～2023年はその前の5年と比較して155%も増えています。

### **戦争商人が続けるウクライナ、イスラエルの戦争**

長崎、広島平和式典直後、米国は約200億ドル（3兆円）に上る莫大な対イスラエル武器輸出を決定しました。8月13日、米國務長官ブリンケンがイスラエルへの武器輸出を承認しています。

米帝国主義はイスラエルを使い、ヨルダン、エジプト、レバノンにまで攻撃を拡大しています。

ネタニヤフは、イスラエルはヒズボラから「報復」の攻撃を受けていると虚偽の宣伝を流し、爆撃を拡大強化しました。しかし事実はイスラエルがヒズボラに先制攻撃をかけ、ヒズボラはイスラエルに反撃したに過ぎません。

米欧はロシアを弱体化するだけでなく、あわよくば、ロシアを侵略しようと軍事的緊張を煽っています。

今年1月から5月までロシア国境付近でおこなわれた「ステッドファスト・ディフェンダー」は米国が主導する冷戦終結後最大規模の米欧の合同軍事演習です。

8月上旬、ゼレンスキーはロシア西部に侵攻し、多くのロシア人民を殺害しました。ゼレンスキー自らウクライナの戦闘は防衛ではなく、ロシア侵略の意図をもっておこなっていることを暴露したといえます。その後、ゼレンスキーはロシアを決定的にたたくためには、長距離ミサイルを使用すべきだし、その許可がほしいと米欧に懇願しています。

バイデンの退陣に合わせ、にわか米大統領選候補になったハリスは、中国、ロシアとの敵対姿勢を露わにしています。彼女は「同盟国とともに米国の安全保障を強化する」と主張し、ウクライナへの支援は軍需産業を中心とした米国経済に貢献していると暴言を吐きました。

他国人民の血の上に自国の繁栄をきずこうとする帝国主義の策動は、長続きすることはありません。

平和と正義を守る自主の国際連帯を強化し、反米反帝闘争を決定的に強化することによって、新しい世界をきずいていくことができるでしょう。

## 二、社会主義、共産主義社会を現実化する朝鮮

朝鮮においては、金正恩総書記が最高指導者に就任してから 12 年余りが経過しました。金正恩総書記は、民衆が幸せに暮らすことのできる社会主義の完全勝利に向けたたたかいを精力的に指導しています。

### 金正恩総書記の思想は為民献身を真髄とする人民大衆第一主義

金正恩総書記は、金日成主席と金正日総書記の思想と指導を忠実に継承するとともに、新しい時代に提起された思想理論的問題を独創的に解決しています。

金正恩総書記は金日成主席と金正日総書記の革命思想を金日成・金正日主義と定式化するとともに、その内容を発展豊富化しています。

金正恩総書記は、金日成・金正日主義の本質は人民大衆第一主義であるとして、つぎのように述べています。

「人民大衆第一主義は、人民大衆を革命と建設の主人とみなして人民大衆に依拠し、人民のために滅私奉仕するという政治理念です。人民大衆第一主義には、人民をこの世でもっとも貴重かつ力強い存在としておしたてるチュチェの革命哲学が具現されており、人民をこよなく大切にし、人民の要求と利益をあくまで実現しようとするわが党と共和国政府の確固たる立場が反映されています」(『現段階における社会主義建設と共和国政府の対内外政策について』 2019 年 4 月 12 日)

人民大衆第一主義の内容を、4 つに整理することができます。

第一に、人民大衆第一主義は、社会主義政権党と国家がすべての活動において人民大衆を革命と建設の主人として対するという政治理念です。

革命と建設の主体は人民大衆なのですから、すべての活動において、人民大衆の主人としての地位を守り、主人としての役割を果たせるようにしていかなければなりません。

第二に、人民大衆第一主義は、社会主義政権党と国家が人民大衆に依拠してすべての問題を解決していくという政治理念です。

革命と建設の主体である人民大衆を信じ、人民大衆と苦楽をともにしながら革命勝利の道をきりひらいていかなければなりません。

第三に、人民大衆第一主義は社会主義政権党と国家が人民のために滅私奉仕するという政治理念です。

党や国家の活動家は、私心をなくして人民に奉仕していかなければなりません。

第四に、人民大衆第一主義は為民献身を核心とする政治理念であるということです。

人民のために献身していくことが党や国家の活動家の役割であると明らかにされました。

素朴な人民大衆の願いを実現し、人民の幸せな生活を保障するために、党や国家の幹

部は自分の身を削って献身していかなくてはなりません。

金正恩総書記の革命思想は、人民大衆第一主義を核心とする思想、理論、方法の全一的体系をなしています。

革命と建設を導くための革命哲学と、革命と建設で提起されるすべての問題に解答を与える革命理論、革命を導くための指導方法がすべて網羅されています。

金正恩総書記の革命思想は、金日成主席と金正日総書記の革命思想を忠実に継承するとともに、新しい時代の革命実践の要求に応じて深化発展させています。

革命と建設が進み、人民大衆の思想意識が高まるなかで、指導思想の内容もまた深められていきます。

金正恩総書記の革命思想は、革命と建設を前進させていくうえで提起されるすべての理論実践的問題に解答を与えています。

### **水害対策にみる為民献身**

金正恩総書記の革命思想がどのようなものであるかは、金正恩総書記の具体的な活動にあらわれています。とりわけ、今年7月末に発生した朝鮮の北部地域の水害と関連した活動において、為民献身とは何かがはっきりと示されました。

7月27日、朝鮮北部の鴨緑江流域の平安北道、慈江道、両江道において大規模な水害が発生しました。地域のほとんどの建物や耕地が冠水するような激しい災害に見舞われ、その地域に住む住民の生命が危険にさらされていました。

水害被害の状況を把握し收拾するため、金正恩総書記は、ただちに朝鮮人民軍を救助に向かわせるとともに、自らも現場に出向いて救出活動を指導しました。

平安北道では水害地域で取り残されていた住民4200人余りを人民軍空軍のヘリコプター部隊が救助しました。まだ風雨の影響が残っているなかであって、ヘリコプター10機が何度も往復し、一人の人命が失われることもなく、全員が無事救助されたのです。

金正恩総書記は、ヘリコプターが救助活動をおこなっている現地に出向いて、避難状況を確認、救助された住民と救助活動にあたった兵士たちを励ましました。

翌日、金正恩総書記は水害が発生した地域の状況を把握し復旧対策をたてるため、党幹部たちとともに再度現地を訪ねました。総書記は、被災した住民の生活を保障し、生活再建のための諸施策をおこなうために、現地で党政治局非常拡大会議を開催しました。

被災地はまだ水がひいておらず、耕地も建物も冠水したままの状況でしたが、救命ボートにまで乗って状況を把握し、災害復旧と住民の生活保障の対策をたてました。

8月8日、金正恩総書記は、避難生活を送っている平安北道の被災住民のもとを再び訪ねました。

避難民はテントのなかで生活していましたが、金正恩総書記がわざわざ訪ねてくれたことを喜び、感激のあまり涙ぐむ人たちもいました。

8月9日、金正恩総書記は被災民たちの前で、今後の復旧活動をどのようにおしすす

めていくのかについて、党がたてた復旧対策に関する演説をおこないました。

金正恩総書記は、水害によって多くの苦勞をしている住民たちが、単に復旧された故郷に帰れるようにするのではなく、現地を地方発展政策の理想の農村、高度に発展した社会主義理想村として建設することを提起しました。

さらに、金正恩総書記は子どもたちや高齢者、病弱者、戦傷榮譽軍人、幼児を抱える母親など、1万5000人余りが平壤にきて、復旧までの期間、安心して生活できるようにすることを提起しました。とりわけ、子どもたちの学習や成長に滞りがないように保障することを強調していました。

金正恩総書記は、“それぞれの事情で現地を離れない人もいるだろうが、水害地域の人民に何か一つでも手助けになり不便を少しでも軽減しようとして手配したことから、何の心配もなくすっかり安心して任せてもいいだろうと思います”と述べ、民衆の心の奥底まで思いやる情の深さを示しました。

その後、朝鮮人民にとって祖国解放の意義深い8月15日には、実際に1万3000人余りの人々が平壤にきて生活するようになりました。4・25旅館、閲兵訓練基地という、国家的行事をおこなう際に使われるりっぱな施設を、被災民たちのために使用することにしたのです。

8月15日、金正恩総書記は住民たちを歓迎する演説をおこないました。演説のなかで、金正恩総書記は次のように述べました。

「自分の人民からの信頼、これはいかなる物質的財産にもくらべられないもっとも大きくて高価な財産です。再三確言することですが、人民の大いなる信頼にこたえるために、われわれはいかなる苦勞もいとわず、すべてを捧げて偉大なわが人民に忠実であるでしょう」(2024年8月15日)

金正恩総書記は、平壤にきた子どもたちに新しい制服や学用品も支給し、子どもたちとともに過ごしながら、平壤に滞在する期間、みなが楽しく有意義な日々を過ごせるようにしたいと語りました。

## **朝鮮社会主義建設の主人は朝鮮人民**

今回、被災地の住民を救出するためにヘリコプター部隊が短時間で集中して救出活動をおこないました。

朝鮮では、人民軍が帝国主義の侵略策動から祖国を防衛するだけでなく、もっとも困難な社会主義建設の現場で働き、革新をおこすようにしています。

人民軍の兵士や党員、青年たちは、党と国家の要求であればすぐにこたえて人民のために身を投じていくことを当然の要求としているのです。

平安北道などの水害被害を知った党員と青年たちは、復旧活動に志願しました。全国から1週間で30万人にも及ぶ人たちが志願して、実際に被災地に派遣され、復旧作業に取り組んでいます。

朝鮮では、自分の持ち場で一生懸命活動するだけでなく、党と国家の要求をうけとめて、自覚的、主体的に闘争する人々が育っています。

金正恩総書記は、コロナ禍で首都防疫危機を平定するために派遣された人民軍軍医部門の戦闘員の模範について、次のように述べています。

「…そしてある軍人たちは、以前国に罪を犯したことで薬局にくるのをはばかりっていた住民世帯にも薬品を送り、われわれの制度の恩恵がもれなく行き届くようにしたことですが、ほんとうによいことをしました。

単に命令をそのまま実行する軍人としてだけではなく、党の意図と政策をよく知り、政治的に正しく思考し行動することのできるこのようなりっぱな気風、政治・思想強兵の真面目を再確認することができたのをわが党は何よりいちばんうれしく、満足に思っています」(『首都の防疫危機を平定した人民軍軍医部門の戦闘員を祝う』2022年8月18日)

### 三、みんなが愛しあい献身する社会へ

朝鮮民主主義人民共和国で、人民大衆第一主義の政治がおこなわれ、社会主義完全勝利に向けたたたかいが力強くおし進められていることは、日本におけるチュチェ思想研究普及活動や、チュチェ思想を学ぼうとする人の生き方に重要な示唆を与えています。

人間は社会的集団のなかで、みんなのためにみんなとともに生きようとする社会的存在です。

人間は生まれる時は個人として生まれますが、生まれた後は社会的関係のなかで育てられていきます。

乳児は空腹になれば泣き、ミルクを飲んでお腹が満たされれば眠るというように、大人の助けを借りて成長していきます。周囲の人々の協力と、愛と献身のなかで育まれていきます。

子どもは成長するにつれ、ただ周囲の人々によって愛され教育されるだけではなく、子ども自身も親や教師、まわりの人々の愛や献身をまねて、ほかの人を愛しながら生きることを求めるようになります。

ですから、「一人はみんなのために、みんなは一人のために」という社会主義、共産主義の理念は、一部の人々の高尚な思想ではなく、素朴な人間としての要求、人間の本質を反映したものといえます。

#### 集団主義で生きる子どもたちによって社会主義未来がつくられる

資本主義社会は金が一番の社会であり、個人主義、利己主義が貫かれる社会です。資本主義社会では人間が疎外され、集団主義は否定されます。

そのため、資本主義のなかで育つ子どもにも、早くから個人利己主義の影響が及びかねません。正しい教育がなければ、子どもであっても他の人を利用して上に立ち、自分の利益や満足を得ようとするもおこります。

しかし、他者を利用し個人の利益を優先するのは、本質的には動物的な生き方です。

子どもたちが人に優しく、友だちと助けあって、みんなのために尽くしていく存在として育っていくよう、人間的な生き方を教え諭していくことが大切です。

金正恩総書記は、2017年6月6日、朝鮮少年団第8回大会でおこなった演説「少年団員は社会主義祖国の真の息子、娘、少年革命家になろう」のなかで次のように述べています。

「少年団員は美しい社会主義道徳品性を身につけなければなりません。

少年団員は、祖国と人民を熱烈に愛し、社会と集団、友だちのためにすべてをささげることができなければなりません。…

少年団員は、幸福を享受するだけの貴公子、貴公女ではなく、金正日愛国主義を胸に秘め、革命烈士が血と汗を流してもたらしめたこの地のすべての財産を大切に、一木一草でも自分の手で育てる幼い愛国者になるべきです」

金正恩総書記はまた、2022年12月27日、朝鮮少年団第9回大会の参加者におくった書簡「少年団の旗を高く掲げ、強国の未来を目指して進もう」で、次のように述べています。

「少年団員が運用している「美しい心を伝える箱」は、たとえ小さいものではあっても、私はそれにもりこまれた美しい心を千金より大事に思っています。

水におぼれた弟たちを救うために荒れすさぶ川のなかにためらわずに飛びこんだ行為も立派ですし、仲間の手に自分の鉛筆をもたせて立ちおくれた勉強を手助けしたげな心、そして防疫活動に多忙な薬局に真心こめて薬袋をつくり届けた美談など、その箱にもりこまれた一つ一つの話はじつに感動的なものであり、仲間の善行をみなに紹介したがる清らかな心もまたとなく大切です」

金正恩総書記が述べているように、子どもは年齢が幼いだけであって、思想まで幼いわけではありません。多くの人を愛し助ける思想をもち実践することのできる、大人と同じ地平に立つ社会的存在です。

最近、会報「チュチェ思想」に掲載された小学生と外国のチュチェ思想研究者の往復書簡にも、集団主義の美しい萌芽をみることができます。

書簡には、外国から日本語を学びにきた研究者との楽しい思い出、たがいに相手を思いやる心があふれています。

知識や学力、道徳、音楽、体力などの教育は、子どもが社会的存在として育つためのものにならなければなりません。

子どもを育てる親や教師、まわりの大人は、何よりも自分自身が集団のために献身し、子どもが社会的な存在として成長できるように、自分自身が子どもにすべてを捧げてい

かなければなりません。

### **人を愛し献身することによって育てていく**

一人のためにみんなが献身し、その人の思想や生き方に責任をもつ集団を築くことが大切です。

また、集団のなかで、人のために献身することを喜びとする思想や行動を定着させていかなければなりません。

人を育てることは助けることと同じです。

例えば、会社に入社したての社員にたいしては、その人が早く独り立ちして仕事ができるように、仕事に自信をもちやりがいを感じるように教え導くのが重要です。

最近、日本では多くの外国人が日本人と一緒に働くようになりました。国籍を問わず、新入社員が張り合いを感じ長く働きたいと思う職場とは、自分が皆の期待に応じて実際に仕事を発展させているという実感を得られる職場です。

新入社員だからと言ってあたり障りのない対話を続けるのではなく、職場を担って立つ有望な人材として見、仕事をよくやれるよう育てていくことが大切です。

子どもを育てる保育所や学習教室では、担当者がだれよりも子どもたちに責任を持ってあらゆる問題を自力で解決しなければなりません。

子どもの教育を担当する人は子どもの気持ちや要求をいつも推しはかり、実現しようと努力しなければなりません。

人間は集団のなかで幸せも楽しみも悲しみも感じる存在です。食事もみんなでとるのが楽しいし、食欲も増します。ひとり親家庭や両親が仕事で忙しい家庭などでは、子どもが一人で食事をすることも多いかもしれません。

子どもの健康を考えて栄養や献立に気を配り、盛り付けを工夫するのも大切ですが、一緒に食事をしながら楽しく対話することがより子どもを喜ばせ健康に育てることができるでしょう。

自分が所属する職場や学校、地域で人々の心をおしはかり、具体的に献身し、育てていく努力を重ねることが大切です。それがチュチェ思想の要求であり、新しい人間中心の社会を築くうえで最も重要な思想的基盤となっていくでしょう。

金正恩総書記が金日成主席と金正日総書記の思想を忠実に継承し、為民献身の活動を自ら実践している姿は、私たちに大きな感動と活動における貴重な教訓を与えています。

金正恩総書記の思想と活動に深く学びながら、多くの人々に献身し、絆を強め、力を合わせて自主の社会を築いていきましょう。

各国のみなさんのご活躍と再会を期待してやみません。ありがとうございました。